

弦107号

評論「同人雑誌の周辺」より

■『遠近』七三号〔横浜市〕

「オリソピック画塾」難波田節子

この雑誌とは昨年秋に東京で行われた全国同人雑誌会議でお会いし、雑誌交換が始まった。歴史小説や数編の小説、コラムにも魅かれたが、筆者にとつて懐かしい風景を思い出させる作品に目がとまった。イーゼルを並べ、くるま座になつて絵を描く画塾教室のシーンである。そこに集まる人々の人物模様はユーモアを交え楽しみに語られる。その中の一人、小関さんに焦点を絞つて書き進める流れも絶妙で、小関さんが生死に係わる大病を乗り越える様子が描かれる。オリソピックを目標にする人がこんなところにも……と。

小関さんは癒やしを受けて立ち直ることができたが、肝心の主人公はあくまで受身で、見守る立ち位置のままなのが空しい気がした。